

## 第12節 外国語活動

### 第1 本資料の活用について

#### 1 作成の基本的な考え方

- (1) 小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説（外国語活動・外国語編）、小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック及び埼玉県小学校教育課程編成要領等を踏まえ、外国語活動における指導計画の作成から学習評価の考え方、実際までを系統的かつ具体的に取り上げて作成した。
- (2) 教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出すことをねらい、「学校の教育目標の実現をねらった教育課程の編成、適切な実施・評価、必要に応じた改善」の一連のサイクル（カリキュラム・マネジメント）を具体的に示した。

#### 2 取り上げた内容

##### 第1 本資料の活用について

##### 第2 外国語活動における学習指導と評価

- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について
- 2 学習指導について
- 3 内容のまとめりと（三つの領域別）の目標
- 4 観点別学習状況の評価の観点について
- 5 内容のまとめりととの評価規準を作成する際の手順と評価の実践への流れ
- 6 評価規準の設定
- 7 言語活動の扱いについて
- 8 振り返りについて
- 9 多様な評価方法について

##### 第3 単元の指導と評価の計画及び改善

- 1 単元計画の作成と評価及び改善の考え方
- 2 単元の指導と評価の計画例

##### 第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

- 1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方
- 2 本時の学習指導案（展開部分）の事例
- 3 学習指導案の事例

##### 第5 外国語活動における学習評価の記述

- 1 学習評価の記述について

#### 指導計画作成の留意事項

編成要領（編P181）で示された「指導計画作成に当たっての留意すべき事項」との関連についても本資料で示していく。

- (1) 「特別な配慮を必要とするなど課題を抱えた児童への指導」の視点
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現の視点
- (3) 「教科等横断的」な視点
- (4) 「社会に開かれた教育課程」の視点
- (5) 「道徳教育の充実」の視点
- (6) 「外国語教育の充実」の視点

#### 3 本資料の活用にあたって配慮すること

- (1) 小学校外国語科及び学校種間の接続に配慮すること  
指導と評価の計画の作成にあたっては、高学年の外国語科並びに中学校及び高等学校における指導と評価の計画との接続に留意する必要がある。
- (2) 指導計画に即した評価を行うこと  
各学校で作成した指導計画に即して行う適切な評価を、学習過程の改善・充実を図る一連のサイクルの確立につなげる。
- (3) 学校、家庭及び地域の実態を踏まえた指導計画を立てること  
各学校においては、地域の教育資源や学習環境を活用するなど、カリキュラム・マネジメントの視点を生かし、指導と評価の計画を作成するように留意する。

#### 4 学力・学習状況調査等の活用

埼玉県学力・学習状況調査から「よい学級経営ができてい学校が、学力や非認知能力を伸ばしている傾向がある」という結果が得られている。人間関係が良好な学級であれば、ペアやグループで行う活動や自己表現活動が充実し、児童の学力や非認知能力を伸ばすことが期待できる。本資料では、この考えに基づき言語活動の扱いに触れるとともに、事例を掲載した。

## 第2 外国語活動における学習指導と評価

### 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱について

学習指導要領では、外国語活動で育成を目指す資質・能力を「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地」と規定するとともに、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理している。(表1)

外国語活動の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		
	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、日本語と外国語との音声の違い等に気付くとともに、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

### 2 学習指導について (P215 参照)

- (1) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる指導のポイントについて
- (2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現を視点とした授業改善について

### 3 内容のまとめりと(三つの領域別)の目標

外国語活動においては、「内容のまとめりと(三つの領域別)の目標及び評価の観点」が設定されている。外国語活動における「内容のまとめり」は、三つの領域(「聞くこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」)である。三つの領域別の目標の記述は、資質・能力の三つの柱を総合的に育成する観点から、それぞれを三つの柱に分けずに、一文ずつの能力記述文で示されている。

(表2)

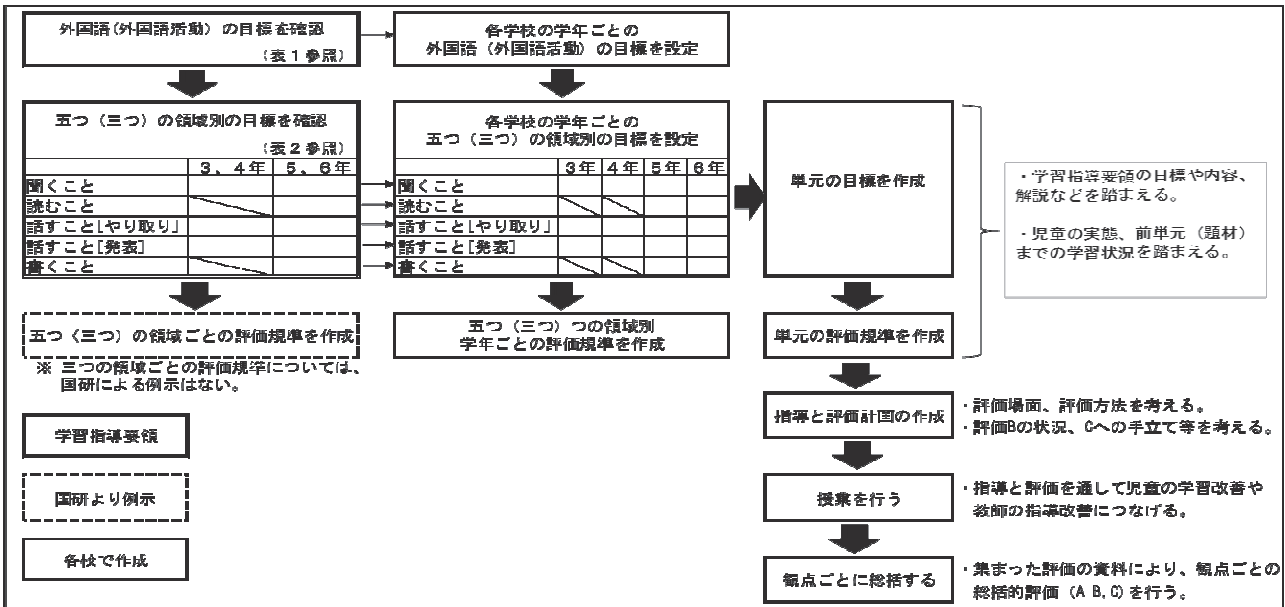
内容のまとめり	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
「聞くこと」	ア ゆっくりはっきりと話された際に、自分のことや身の回りの物を表す簡単な語句を聞き取るようにする。 イ ゆっくりはっきりと話された際に、身近で簡単な事柄に関する基本的な表現の意味が分かるようにする。 ウ 文字の読み方が発音されるのを聞いた際に、どの文字であるかが分かるようにする。		
「話すこと」 [やり取り]	ア 基本的な表現を用いて挨拶、感謝、簡単な指示をしたり、それらに応じたりするようにする。 イ 自分のことや身の回りの物について、動作を交えながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うようにする。 ウ サポートを受けて、自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いて質問をしたり質問に答えたりするようにする。		
「話すこと」 [発表]	ア 身の回りの物について、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。 イ 自分のことについて、人前で実物などを見せながら、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。 ウ 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、人前で実物などを見せながら、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて話すようにする。		

### 4 観点別学習状況の評価の観点について

(表3)

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深めている。 ・日本語と外国語の音声の違い等に気付いている。 ・外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しんでいる。	・身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。	・外国語を通して、言語やその背景にある文化に対する理解を深め、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。
留意点	「体験的に理解を深め」という文言に留意する。あくまでも、コミュニケーションの体験を通して、それらの知識・技能に慣れ親しむことが大切であり、「知識及び技能」の定着を直接的なねらいにしているのではない。	「自分の考えや気持ち」を伝え合うこととなるため、「思考力・判断力」が求められる。ただし、「伝え合う力の素地」とあることから、正確性にこだわるよりも、できるだけ多くの活動を体験させることにより、伝え合う力を養うことが大切だと示唆している。	「相手」という記述は、いつも周りにいる友達や指導者(ALTを含む)等を指している。相手が理解しやすくするには、どのように話したらよいのかなどを考えることが大切であるとともに、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を重視している。

## 5 内容のまとめりごとの評価規準を作成する際の手順と評価の実践への流れ



### 6 評価規準の設定 P 217 に準ずる

### 7 言語活動の扱いについて

### 8 振り返りについて

### 9 多様な評価方法について

} P 218、P 219 参照

## 第3 単元の指導と評価の計画及び改善

### 1 単元計画の作成と評価及び改善の考え方

- 単元の指導計画の作成に当たっては、本単元で目指す児童の姿（以下「ゴール」という。）を明確にし、ゴールから逆算して各単位時間の目標を決め、活動を組み立てながら単元を構成（バックワード・デザイン）していくことに留意する。言語活動を設定するに当たっては、「聞くこと」が中心の活動から「話すこと」が中心の活動へのように、言語習得の特性を踏まえ、段階的にゴールを目指す構成とする。
- 単元における評価の計画に当たっては、それぞれの1単位時間の授業で全ての観点を見取るのではなく、単元や題材などの内容や時間のまとめりの中で、評価の場面や方法を工夫しつつ、適切に設定することに留意する。また、学習評価の方針を事前に児童と共有する場面を必要に応じて設けることは、妥当性や信頼性を高めるとともに、児童自身に学習の見通しをもたせる上で重要である。その際、児童の発達の段階等を踏まえ、例えば児童の行動観察のほか、評価補助簿や振り返りカード等を活用して、多面的・多角的な評価を行うなど、適切な工夫が求められる。
- 授業改善に生かすための評価については、日常的に実施されることが重要である。一方で、目標に準拠して進捗状況を把握する学習評価（記録に残す評価）は、毎授業ではなく単元や題材など内容や時間のまとめりを見通して、実現状況を把握できる段階で行うなど、場面を精選することが重要である。また、評価のための指導とならないように留意し、児童のよい点や可能性、進歩の状況、変容等を積極的に評価したり、教師自身の指導の改善・充実を図るため、評価結果を活用したりすることも重要である。各学校においては、指導と評価の一体化を目指し、評価を活用し、学習過程の改善・充実を図る一連のサイクルを確立するよう努めていくことが必要である。
- 年間指導計画では、評価の観点を加え、以下のように表記する。

時数	単元名	単元目標	主な活動例	評価の観点			表現例	新出語彙・語句例	既習表現・語彙例
				知・技	思・判・表	態			
5 4単位 時間	What do you like? 何が好き?	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語と英語の音声の違いに気が付き、身の回りの物の言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。</li> <li>何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。</li> <li>相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしようとする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おはじきゲームをする。</li> <li>自分や友達の良いところを予想して尋ねたり答えたりする。</li> <li>リクエスト給食のメニューを決めようを行う。</li> <li>児童同士で、友達の良いところを尋ね合う。</li> </ul>	聞 や	や	や	what, color, スポーツ (sport, volleyball, table tennis) 食・食べ物 (food, hamburger, pizza, steak, spaghetti, salad, cake, egg, rice ball, jam, noodle) 果物 (fruit, orange, grape, pineapple, peach, melon, banana, kiwi fruit, lemon)	挨拶 Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don't. 数 (1-20)、色、果物・野菜、飲食物、スポーツ	

## 2 単元の指導と評価の計画例

<事例1> 『『聞くこと』から段階的に『話すこと [やり取り]』につなげること』をねらった事例  
 第3学年 『Let's Try! 1』Unit 5 『What do you like?』何が好き？  
 指導要領との関わり：内容(1)ア、イ(ア)、(2)イ、(3)①ア(イ)、イ(イ)、②ア(イ)、イ(オ)

- (1) 単元の指導計画の作成に当たっての工夫、配慮事項等
- ア 本単元の指導計画の作成に当たっては、単元のゴールを「児童同士が学習表現等を使って、やり取りをしながら「クイズ『私は誰でしょう』』に取り組むこと」と設定した。そこで、ゴールから逆算して各単位時間の目標を決めるとともに、目標に添った具体的な活動を設定するため、練習や活動等の配列や時間配分、評価場面を工夫・検討し、指導計画に位置付けた。
- イ 「中心となる活動」については、児童が「聞きたくなる」、「話したくなる」ように場面設定等を工夫した。また、言語習得の特性を踏まえ、「聞く活動」、「まねる活動」、「自ら発話する活動」へと段階的に指導することとした。
- (2) 学習評価に当たっての工夫、配慮事項等
- ア 学習評価の実施に当たっては、学習状況を把握する観点から、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫することが求められる。児童の行動観察やパフォーマンス評価（インタビュー [面接]、授業内の発表、児童が書き記したワークシートや作品等の評価）など、多様な評価方法を考慮した上で、各評価場面に適した方法を選択して評価できるよう配慮している。
- イ 児童が自ら学習の目標をもち、学習方法等を見直しながらか学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげるといった、学習に関する自己調整を行いながら、粘り強く知識・技能を獲得したり思考・判断・表現しようとしていたりしているかどうかという、意思的な側面を捉えて評価することが求められる。そこで、各授業の終末に、振り返りの場面を設定し、児童が本時のねらいに即した自己評価を行えるようにしている。
- (3) 評価に基づく改善のポイント
- ア 授業改善に向けての評価としては、次の点に留意して単元の評価の計画を作成している。
- ・単元の指導に対しての評価結果を基に、言語活動で扱う題材やコミュニケーションの場面や状況を修正したり、音声に十分に慣れ親しむまで聞くことの量を増やしたりするなど、指導計画を見直し授業改善に生かしていく。
- イ 児童への学習評価としては、次の点に留意して単元の評価の計画を作成している。
- ・それぞれの1単位時間の中で全ての観点を見取るのではなく、単元や題材のまとまりを見通し、児童の進歩の状況などを踏まえて評価をするようにしている。また、知識や技能の「慣れ親しみ」に関する評価については、児童が活動の中で使用することが想定される語句や英語表現を用いて活動している様子を観察したり、ワークシート等で確認したりするように計画している。
- (4) 単元の指導と評価の計画の実際
- 単元の目標
- ・日本語と英語の音声の違いに気付き、身の回りの物の言い方や、何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。 〈知識及び技能〉
  - ・何が好きかを尋ねたり答えたりして伝え合う。 〈思考力、判断力、表現力等〉
  - ・相手に伝わるように工夫しながら、何が好きかを尋ねたり答えたりしようとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉
- 単元の評価規準

(本単元における「話すこと [発表]」については目標に向けて指導は行すが、本単元内で記録に残す評価は行わない。)

	聞くこと (聞)	話すこと [やり取り] (答)
知識・技能	<知識> ①身の回りの物の言い方について日本語と英語の音声の違いに気付いている。	<技能> ①自分や相手の好みについての自分や相手の考えなどを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。
思考・判断・表現		①友達のことを知ったり、自分自身のことについて伝えたりするために、自分や相手の好みについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分や相手の考えなどを伝え合っている。

主体的に学習に取り組む態度		①友達のことを知ったり、自分自身のことについて伝えたりするために、自分や相手の好みについて、自分や相手の考えなどを工夫しながら伝え合おうとしている。
---------------	--	--

単元計画（4時間）

時	◆目標・○活動	評価			
		知・技	思・判・表	態	
1	◆身の回りの物を表す語彙の日本語と英語の音声の違いに気付くとともに、好きなものを尋ねたり答えたりする表現を知る。				◎評価規準<評価方法>
	○Teacher Talk 「好きな色」 ○【Let's Sing】「The Rainbow Song」				
	○「先生の好きなもの」 ○【Let's Play】 ・指導者は、ある児童にテキストに掲載された食べ物の中から好きな食べ物を尋ね、その児童が答えた食べ物と同じものが好きな児童はおはじきを取る。	聞 ①			◎身の回りの物の言い方について日本語と英語の音声の違いに気付いている。 <行動観察・振り返りカード分析>
2 本 時	◆食べ物の言い方や、好きな食べ物について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。				
	○Teacher Talk 「好きなスポーツ」				
	○【Let's Sing】「The Rainbow Song」 ○「リクエスト給食のメニューを決めよう！」 ・学級全体で「リクエスト給食のメニュー」を作りながら、好きな食べ物などを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	や ①			◎自分や相手の好みについての自分や相手の考えなどを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。 <行動観察・振り返りカード分析>
	○【Let's Listen】	聞 ①			◎身の回りの物の言い方について日本語と英語の音声の違いに気付いている。 <行動観察・振り返りカード分析>
3	◆好きなスポーツや色、食べ物などについて、何が好きかを尋ねたり答えたりして考えを伝え合っている。				
	○Teacher Talk 「好きな果物」 ○【Let's Sing】「The Rainbow Song」 ○「Who am I?」クイズ（学級の友達編） ○【Let's Watch and Think】 ○【Activity①】 ・友達の好きなもの(食べ物、色、スポーツ)を予想して尋ね合う。		や ①		◎友達のことを知ったり、自分自身のことについて伝えたりするために、自分や相手の好みについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分や相手の考えなどを伝え合っている。 <行動観察・振り返りカード分析>
	児童の実態に応じて、クラス全体でのやり取りの中で尋ねたり答えたりすることも想定される。				
4	◆相手に伝わるように工夫しながら、友達になりきって好みを紹介しようとする。				
	○Teacher Talk 「好きな動物」 ○【Let's Sing】「The Rainbow Song」 ○【Activity②】				
	○「友達なりきり紹介」をしよう ・友達になりきって自己紹介をし合い、誰であるかを当て、自分や友達の新たな面に気付く。		や ①		◎友達のことを知ったり、自分自身のことについて伝えたりするために、自分や相手の好みについて、自分や相手の考えなどを工夫しながら伝え合おうとしている。 <行動観察・振り返りカード分析>
	児童のインプットの量や実際にアウトプットできる量を考慮し、無理のない活動の方法を工夫する。				

## 第4 本時の学習指導（学習指導案）と評価及び改善

### 1 本時の学習指導と評価及び改善の考え方

- (1) 本時の学習指導に当たっては、指導者は本時のねらいを十分に理解するとともに、コミュニケーションの目的や場面、状況等を十分考慮した上で学習活動を設定する。また、音声で十分に慣れ親しませてから話すことへつなげるなど、言語習得の特性等を踏まえた学習指導を行うよう配慮する。  
なお、1単位時間における授業の活動の流れの例としては、「挨拶→ウォームアップ／導入／復習→中心となる活動→まとめ／振り返り→挨拶」のようなものが考えられる。
- (2) 本時の評価に当たっては、授業の終末に、本時の学習の振り返りをする場面を設定し、例えば、振り返りカードに本時のねらいに即した自己評価等を記入させるとよい。また、教師は評価補助簿等を活用し、児童の学習について、特筆すべき事柄を記入しておく。その際、教師は本単元で目指す児童の姿を基に評価の観点や、場面・方法・規準を明確にして行うことが大切である。
- (3) 本時の評価結果を基に、指導方法等を見直し、児童の学力の育成に結び付けられるようにする。そのために、児童の取組状況などを適切に把握し、指導計画の見直しや授業改善に生かす。このように、評価には教師の指導改善の視点も含まれることや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善等においても大きな役割を果たすことを意識して取り組む必要がある。

### 2 本時の学習指導案（展開部分）の事例

**<事例2> 「表現を繰り返し聞かせて十分に慣れ親しませること」をねらった事例**  
第3学年『Let's Try! 1』Unit 5『What do you like?』何が好き？  
指導要領との関わり：内容(1)ア、(2)ア、(3)①ア(ア(イ)、イウ)、②ア(ア)、イ(エ)

- (1) 本時の学習指導案（展開部分）の作成に当たっての工夫、配慮事項等  
ア 児童の発話を受け止め、丁寧に英語で応じたり、教師が自己開示をしたりするなど、意味のある内容のやり取りの中で何度も繰り返し言語材料を用いて練習させることで、十分慣れ親しませるようにしている。  
イ 児童が思わず「聞きたくなる」、「話したくなる」ように、「リクエスト給食のメニューを決めよう」というコミュニケーションの目的や場面、状況等に応じた活動を設定した。また、児童が活動の中で、音声と事物を結び付けることができるようにしている。
- (2) 評価に当たっての工夫、配慮事項等  
ア 繰り返し言語材料について理解したり練習したりするための活動や、意味のあるやり取りを通して話したり、自分のこととして練習したりする活動を設定することで、児童が十分に語彙や表現に慣れ親しめるようにした。また、教師が一人一人の児童とやり取りをすることで、個々の児童の学習状況を把握できるようにした。  
イ 教師と児童とのやり取りを通して語彙や基本的な表現に十分に慣れ親しんでから、聞き取り理解する活動（【Let's Listen】）に取り組ませることとした。児童が英文の聞き取りに当たり十分に準備のできた状態にさせてから学習評価を行うようにした。
- (3) 評価に基づく改善のポイント  
ア 本時に学習する表現への慣れ親しみが十分ではない場合は、次の学習活動において場面設定を変え、教師とALTや教師と児童のやり取りを改めて行うなど、児童の進歩の状況を踏まえて指導を行うようにする。  
イ 身の回りの物を表す語句については、次の授業のTeacher Talkの際にも意図的に取り上げて指導を行うこととする。
- (4) 学習指導案（展開部分）の実際

#### 指導案 2／4 （1単位時間の計画）

目標 食べ物と言葉の言い方や、好きな食べ物について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

準備 デジタル教材・・・**デ教**、児童用テキスト・・・**テキスト**、絵カード・・・**絵カ**、  
振り返りカード・・・**振カ**、CD・・・**CD**

○本時の展開（2／4）

時間	○児童の活動	・指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
1分	○挨拶をする。	・全体に挨拶をする。	
「①あいさつ→②Teacher Talk→③Song→④Activity→⑤ふりかえり」のように板書等を行い、授業の流れを視覚的に分かるようにする。基本的な活動の順番を意図的に実践していくことで、児童が学習の流れをつかみやすくする。			
5分	○Teacher Talk「好きなスポーツ」 ・既習の好きなものの言い方を想起する。	T : I like soccer. Who likes soccer? Oh, You like soccer. Please sit down.	絵カ
5分	○【Let's Sing】「The Rainbow Song」 ・前時の学習を想起し、歌の内容を思い出す。 ・歌えそうな部分から歌う。	・デジタル教材を操作する。 ・児童と共に歌う。	デ教
18分	○本時のねらいを知る。  <b>リクエスト給食のメニューを決めよう！</b>  ○「リクエスト給食のメニューを決めよう！」 ・食育での学習内容を教科横断的に活用しながら、リクエスト給食を考える。 ・自分の好きな料理名を言いながら、学級全体でリクエスト給食の献立を決める。 (主食→飲み物→デザート)の順) S1 : (日本語の発音で) スパゲッティ  本時に学習する表現を、意味のある内容のやり取りの中で聞かせることを目的とした活動において、指導者は児童の考えを受け止めるとともに、指導者自身の考えも話し、自己開示をする等の工夫をする。  S2 : Pizza.  児童が学習表現を練習する機会となるように、場面の中で出されたものについて話す場面を設定する。  意味のある文脈でのコミュニケーションにおいて、児童一人一人とやり取りをすることで、児童の学習状況を把握する。  ・リクエストで決まったもの以外でも、他の児童に自分の好きなものが伝わるように表現する。  S : I like curry and rice.	○本時のねらいを伝える。  <b>P272 指導計画作成の留意事項(3)</b>  T : リクエスト給食の献立を決めましょう。みんなが好きなもので献立を作りましょう。 (カレーライスの絵カードを掲示) T : I like curry and rice. みんなだったら？ What do you like? T : Oh, you like spaghetti. I like curry and rice. ・スパゲッティの絵カードを掲示し、活動の内容が捉えられるようにする。  T : What do you like? T : Oh, you like pizza. I like curry and rice. ・児童が好きと答えた料理については、その絵カードの横に「正」の字を記入するなどして、どの料理のリクエストが多いかが分かるようにする。  ◎好きなものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。【知・技】・ <input checked="" type="checkbox"/> ・① <行動観察・振り返りカード分析> T : 先生がこれから好きなものを言うので、自分も好きだったら一緒に言いましょ。最初に自分の好きなものについてどう言ったらいいか考えましょ。 T : I like curry and rice.	絵カ
11分	○【Let's Listen】 ・音声を聞いて、登場人物とその好きなスポーツや食べ物を表す絵を線で結ぶ。 ・答えの確認をする。  児童と事前に簡単なやり取りをして、答えを予想しやすくなるような情報を伝え、児童の発話につなげられるよう、発問の仕方を工夫する。  やり取りを通して語彙や表現に十分慣れ親しませからの評価となるよう、評価の場면을工夫する。  児童Aさんは、やり取りを聞いて正しく線でつなぎながら日本語と英語の音の違いに気付く発言をしていたので、評価補助簿に記録を残す。	T : さよさんは、何が好きだと思いますか。会話を聞いてみましょう。  ・児童とのやり取り後、予想させてから、音声を聞かせる。その後、答えの確認をする。 ・児童に「さよさんは何が好きだと思う」と発問し、発話につなげることもできる。  ◎身の回りの物の言い方を聞いている。 【知・技】・ <input checked="" type="checkbox"/> ・① <行動観察・振り返りカード分析>	デ教 テキスト
<b>P272 指導計画作成の留意事項(2)</b>			

1分	○本時のまとめをする。	・本時のねらいに照らしたまとめとして、決まったリクエスト給食のメニューを伝える。	
3分	○本時の活動の振り返りをする。振り返りカードに記入する。	・本時のねらいに照らして児童を評価する。 ・本時の児童のよかったところを称賛する。	振カ
<p>指導者は、児童の振り返りから、もっと学びたいことや、分かったこと分からなかったこと、学び方のよさ等を見取るとともに、児童の学習の様子を振り返り、その結果を授業改善等の取組につなげる。</p>			
1分	○挨拶をする。	・全体に挨拶をする。	

### 3 学習指導案の事例

＜事例3＞ 「やり取りを通して、表現を体験的に身に付けること」をねらった事例  
 第4学年 『Let's Try! 2』 Unit7 『What do you want?』 ほしいものは何かな？  
 指導要領との関わり：内容(1)アイ(イ) (ウ)、(2)ア、(3)①ア(イ) (ウ)、イ(ウ)、ウ(イ)、②ア(イ)

- (1) 学習指導案の作成に当たっての工夫、配慮事項等  
 児童が主体的に自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができるように、言語活動において、コミュニケーションの目的や場面、状況等を設定した。英語で聞いた内容について、適切な内容を自分の考えや気持ちで選択させたり、自分に当てはまるときは挙手させたりすることで、児童に英語を聞く必然性をもたせ、英語の音声に慣れ親しませるようにした。
- (2) 評価に当たっての工夫、配慮事項等  
 評価においては、指導内容や児童の発達の段階、特性等に応じて、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫し、学習過程の適切な場面で評価を行う必要がある。そこで、児童の振り返りカードを用いた学習活動としての相互評価や自己評価、教師の評価補助簿等を活用した評価などの工夫も考えられる。
- (3) 評価に基づく改善のポイント  
 評価の結果、児童が語彙や表現に十分慣れ親しんでいない場合には、児童がもっと聞いてみたいという意欲につながるようなコミュニケーションの目的や場面、状況等を新たに設定したり、話す活動を行う前に、聞く活動をさらに取り入れたりするなどして、評価結果を授業改善に生かす。
- (4) 学習指導案の実際

## 第4学年○組外国語活動学習指導案

令和〇〇年〇月〇日 ( ) 第〇校時  
 活動場所 4年○組教室  
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

- 1 単元名 『Let's Try!2』 Unit7 What do you want? ほしいものは何かな？
- 2 単元について 省略
- 3 児童の実態について 省略
- 4 単元の目標
  - ・ 食材の言い方や欲しい物を尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。 〈知識及び技能〉
  - ・ 欲しい食材などを尋ねたり要求したりして考えたメニューを紹介する。 〈思考力、判断力、表現力等〉
  - ・ 相手に配慮しながら、自分のオリジナルメニューを紹介しようとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉
- 5 単元の評価規準

	聞くこと 聞	話すこと [やり取り] や	話すこと [発表] 発
知識・技能	<知識> ①食材の言い方や欲しい物を要求する言い方に気付いている。		



	<技能> ②食材の言い方や欲しい物を要求するやり取りに慣れ親しんでいる。		
思考・判断・表現		①友達のことを知ったり自分の好みを伝えたりするために、簡単な語句や基本的な表現を用いて自分の欲しい物を伝え合っている。	
主体的に学習に取り組む態度			①友達のことを知ったり自分の欲しい物を伝えたりするために、自分の好みを工夫しながら紹介しようとしている。

## 6 単元計画（5時間）

時	◆目標・○活動	評 価			
		知・技	思・判・表	態	
1 本 時	<p>◆果物の言い方や、欲しいものを尋ねたり要求したりする言い方に慣れ親しむ。</p> <p>○Teacher Talk 「好きな果物」</p> <p>○【Let's Sing】「To Market, to Market」</p> <p>○【Let's Watch and Think】</p> <p>○【Let's Play】おはじきゲーム</p> <p>地域にいる外国出身の方に、自分の国のマーケットについて説明してもらう。児童はその説明を聞いて、日本と外国の違いを理解する。ALT や地域人材がいない場合には、『Let's Try』のデジタル教材を見せたり、テレビ電話などで外国在住の方からの話を聞かせたりして興味をもたせる。</p>				<p>◎果物の言い方を聞いておはじきを取っている。&lt;行動観察・振り返りカード分析&gt;</p>
2	<p>◆欲しい果物を尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。</p> <p>○Teacher Talk 「冷蔵庫の中身」</p> <p>○【Let's Sing】「To Market, to Market」</p> <p>英語の音声やリズムに慣れ親しませることや、実際に英語で歌うことを通して、英語特有のリズムやイントネーションを体得させることをねらいとして、歌を歌う活動を毎時間設けている。</p> <p>○「給食のデザートにはこれ」</p> <p>・『Let's Try!2』P27 の果物で、「給食に出てほしい果物ランキング」を作りながら、欲しい果物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。</p> <p>○【Let's Listen 1】</p>				<p>◎果物の言い方や、欲しいものを要求する表現を聞いたり言ったりしている。&lt;行動観察・振り返りカード分析&gt;</p>
3	<p>◆欲しい野菜を尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。</p> <p>○Teacher Talk 「好きな野菜」</p> <p>○【Let's Sing】「To Market, to Market」</p> <p>○【Let's Play】おはじきゲーム</p> <p>○「カレーの材料にはこれ」</p> <p>・『Let's Try!2』P26 の野菜から、クラスのカレーの材料に自分が欲しいものを選んで、指導者に伝える。</p>				<p>◎野菜の言い方や、欲しいものを要求する表現を聞いたり言ったりしている。&lt;行動観察・振り返りカード分析&gt;</p>
4	<p>◆食材について欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。</p> <p>○Teacher Talk 「自分の名前のアルファベット」</p> <p>○【Let's Sing】「To Market, to Market」</p>				<p>文字に対して興味・関心が高まるように、自分の名前などの音声で十分慣れ親しんだ文字を扱うようにする。</p>

	○【Let's Listen 1】 ○【Activity 1】 ・『Let's Try!2』P28にある果物カードを、指導者とのやり取りを通して集める。		や ①	◎食材について欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合っている。 <行動観察・振り返りカード分析>
5	◆自分のオリジナルピザを工夫しながら紹介しようとする。			
	○Teacher Talk 「自分の名前のアルファベット」 ○【Let's Sing】「To Market, to Market」 ○【Activity 2】 ・食べ物カードを用いて、ピザの具材を、やり取りを通して集める。出来上がったピザを見せながら、グループや学級全体の前で話す。		発 ①	◎工夫しながら自分のオリジナルピザの具材を伝え合っている。 <行動観察・振り返りカード分析>

## 7 本時の展開

目標 果物を表す語彙の日本語と英語の違いに気付くとともに、欲しい果物について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

準備 デジタル教材・・・**デ教**、児童用テキスト・・・**テキスト**、絵カード・・・**絵カ**、振り返りカード・・・**振カ**、CD・・・**CD**、おはじき・・・**おはじき**

○本時の展開（1 / 5）

時間	○児童の活動	・指導者の活動 ◎評価<方法>	準備物
1分	○挨拶をする。 ○単元の学習活動のねらいや見通しについての説明を聞く。	・全体に挨拶をする。 ・単元の学習活動のねらいや見通しを話す。 P272 指導計画作成の留意事項(1)	
1分	○本時のねらいを知る。	・本時のねらいを伝える。 <b>市場で自分の欲しい果物を集めよう！</b>	
9分	○Teacher Talk 「好きな果物」 ・「好きな果物」を表す表現を聞き、自分に当てはまるものに手を挙げる。	T: I like apples. Who likes apples? (児童が挙手をする。) You like apples. Please sit down. ・果物の英語での言い方を導入することを目的として活動させる。 ・全員が座ったら、「今度は、少しでも好きな果物なら何度も手を挙げてよい」ことを伝え、繰り返し語彙や表現について練習させる。	<b>絵カ</b>
9分	○【Let's Sing】「To Market, to Market」 ・歌の1番の歌詞の音声について、絵や写真等を参考にしながら繰り返し聞いたり、指導者の発問に答えたりする。	・歌の導入として、指導者が実際に歌ったり CD を使用したりして、児童に聞かせる。「よく出てきた音は何」や「出てきた動物は」など、聞く目的をもたせながら繰り返し聞かせる。	<b>CD</b>
10分	○【Let's Watch and Think】 ・デジタル教材を視聴し、世界の市場の様子を見て、それぞれの国の違いに気付く。	動画を一時停止し、「この国の市場には何があるか」や「日本との違いは何か」などと発問しながら、興味や関心をもたせて視聴させる。	<b>デ教</b> <b>テキスト</b>
10分	○【Let's Play】おはじきゲーム ・欲しい果物を3つ決めて、P27におはじきを置く。指導者が児童に質問し、答えた児童と自分の欲しい果物が同じだった場合はおはじきを取る。 S1: Apples. (I want apples.)	・「市場から3つだけ果物をもらうことができます。」と場面を設定し、児童にどれが欲しいか考えさせる。 T: 市場で3つだけ果物がもらえます。先生だったら、 I want bananas. What fruits do you want? T: You want apples.	<b>デ教</b> <b>テキスト</b> <b>おはじき</b>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おはじきを置いた3つの果物以外にも自分の欲しい果物を言う。</li> </ul> <p><b>【教師の指導改善のためのポイント例】</b> 欲しいものを言うことが不十分な児童がいる場合は、Teacher Talk で「欲しい果物」について聞かせる。または、第2時に向けて給食に出てきて欲しい果物について尋ね、その質問の仕方や答え方に慣れさせておく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が音声に慣れ親しんできたなら、I want~.と発話するよう促す。</li> </ul> <p>T:おはじきを置いた3つの果物以外にも欲しいものがあり、自分に当てはまる場合は先生の後に続いて言いましょう。</p> <p>T: I want bananas.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面や状況の中で発言のあった内容について会話をすることで練習する機会を作る。</li> </ul> <p>◎果物の言い方を聞いておはじきを取っている。</p> <p><b>【知・技】・聞・①</b> ＜行動観察・振り返りカード分析＞</p>	
1分	○本時のまとめをする。	・本時のねらいに照らしたまとめとして、児童に欲しい果物を英語で言わせる。	
3分	○本時の活動の振り返りをする。振り返りカードに記入をする。	・本時のねらいに照らして、児童が分かったことや分からなかったこと、考えたことや感じたことを振り返るようにし、向上したことや学び方のよさを確認、実感できるように称賛する。	振力
1分	○挨拶をする。	・気持ちよく授業が終わるように挨拶をする。	

## 第5 外国語活動における学習評価の記述

### 1 学習評価の記述について

#### (1) 学習評価の場面や方法について

##### ア 適切な評価場面の設定

学習評価については、日々の授業の中で児童の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことが大切である。観点別学習状況の評価として記録に残す評価については、毎回の授業ではなく、単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、評価を行う場面を精選することが必要である。特に外国語の学習においては、意味のある文脈でのコミュニケーションの中で、語句や表現を繰り返し練習することで、それらを活用する力が身に付くことを考慮し、ある程度長い時間の区切りの中で、適切に設定した時期において評価することが重要である。

##### イ 適切な評価方法の活用

学習評価の際には、目標に準拠した評価として適切な評価方法を用いることが求められる。活動の観察やパフォーマンス評価など、多様な評価方法から児童の学習状況を的確に評価できる方法を選択して評価することが重要である。例えば、知識や技能の「慣れ親しみ」に関する評価については、活動の観察やワークシート、作品等による評価が挙げられる。慣れ親しんでいる児童の姿を、単元の中で使用することが設定されている語句や表現を用いて活動を行っている状態と考えると、後日、評価をするのは不適切である。そこで、学習評価を行う際には次のような表を、単元を通して活用することも考えられる。

【「Let's Try!1 Unit5 What do you like? 何が好き？」の場合】

	観 点	知 識 ・ 技 能		思 考 ・ 判 断 ・ 表 現		主 体 的 に 学 習 に 取 り 組 む 態 度	
	評価規準	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの物の言い方について日本語と英語の音声の違いに気付いている。</li> <li>・自分や相手の好みについての自分や相手の考えなどを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のことを知ったり、自分自身のことについて伝えたりするために、自分や相手の好みについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分や相手の考えなどを伝え合っている。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達のことを知ったり、自分自身のことについて伝えたりするために、自分や相手の好みについて自分や相手の考えなどを工夫しながら伝え合おうとしている。</li> </ul>	
No.	氏 名	行 動	記 述	行 動	記 述	行 動	記 述
1	○○ ○○						
2	△△ △△						

(2) 学期末及び学年末における観点ごとの評価の総括について

1 学期間及び1年間を通しての学習評価の累積は、通知表等や児童指導要録に総括される。児童指導要録における「外国語活動の記録」やいわゆる通知表等による家庭への連絡については、評価の観点に照らして、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記載する等、児童にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述する。

【埼玉県版 小学校指導要録 参考様式】

外国語活動の記録			
学年	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
3			
4			

- ・従来、観点別に分けて設けていた文章記述欄を学年ごとに一本化した上で、評価の観点に即して、児童の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入する。
- ・記載する事項や内容等については、全職員で共通理解を図る。
- ・児童指導要録に記載した学習評価は、次年度以降、児童への指導に生かすことが大切である。

【児童指導要録や通知表等の記入例】

【知識・技能】

- ・「身の回りの物の言い方」の学習では、外来語とそれが由来する英語との音声の違いに気付いていた。
- ・世界の食べ物の違いについて知り、世界には多様な食文化があることに気付いた。
- ・自分や相手の欲しいものについて、I want～や What do you want?を用いて、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しんでいた。
- ・日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気付きながら、日課を表す表現に慣れ親しんでいた。

【思考・判断・表現】

- ・ALT の話を聞き取るために、聞いたことのある表現や写真等を基に話を推測しながら聞くことで、大まかな内容を捉えていた。
- ・自分や相手の持っているものについて、今までに慣れ親しんだ表現を使って伝え合っていた。
- ・自分の考えや気持ちが相手に伝わるように、ゆっくり話したり、繰り返して話したりするなど工夫してやり取りをしていた。
- ・「自分の好きな時間」について、日常生活と関係付けながら、既習表現を使って、学級の友達や教師と話していた。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・自分のことについて伝えたり、学級の友達のことについて理解したりするために、自分や相手の好きなことについて伝え合っていた。
- ・学級の友達に自分の考えや気持ちが伝わるように、表情やジェスチャーをつけながら、ペアで挨拶をしようとしていた。
- ・ALT に「自分のお気に入りの場所」が伝わるように、既習表現を使って伝えようとしていた。
- ・絵本や物語の読み聞かせの内容に反応しながら聞くとともに、相手意識をもって台詞をまねて言おうとしていた。

＜記載する際の留意点＞

- ・児童のよい点、意欲や態度、進歩の状況などを踏まえた記載に努める。
- ・通知表等の記載については、学習状況等について保護者や児童自身に伝えるものであるから、分かりやすい文言を用いる。
- ・児童が「これからも頑張ろう」と思えるような励ましの学習評価に努める。
- ・児童の学習状況を記載するに当たっては、1つの観点だけではなく、複数の観点について記載することもできる。